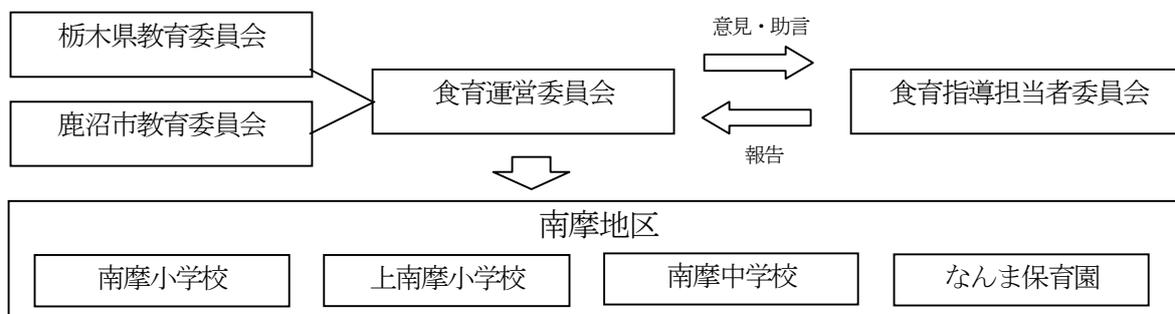


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	栃木県
再委託先名	鹿沼市

1. 事業推進の体制



食育運営委員会：メンバーは学校医、地区保育園長、各小学校保護者代表、中学校保護者代表、地区内生産者代表、地区内学校長、地区内栄養教諭、地区内小中学校給食主任、地区内小中学校養護教諭、県教育委員会、市教育委員会の計 21 名で構成している。

食育指導担当者委員会：食育の具体的な実践内容や方法について検討する。
メンバーは市内小中学校の栄養教諭及び学校栄養職員、地区内小中学校給食主任、地区内養護教諭、市教育委員会の計 16 名で構成している。

2. 事業内容

テーマ1 南摩地区で取り組む小中9年間を通した食に関する指導の充実

- 南摩地区で育つ子どもの小中9年間の系統性を考えた食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の作成
 - ⇒ 小中学校9年間で発達の段階ごとの食に関する指導目標や身に付けさせたい資質や能力、さらに、その資質や能力を育てるための給食時間における取組を一覧表にまとめ、食に関する指導の全体計画や学年別指導計画を整備し、食に関する指導目標別学習活動一覧表を作成し、ねらいを明確にして系統立てた指導を展開した。
- 年間指導計画を基にした食に関する指導
 - ・ 学校給食を生かした各教科等における食に関する指導の充実
 - ⇒ 小中9年間の系統性を考えた食に関する指導の取組一覧の中に、学校給食献立作成上の配慮点を明記し、学級活動の時間に学校給食を生かした教材として活用した指導を行った。さらに給食の時間において、それを実践につなげることができた。また、学級活動で使用したワークシートを家庭に持ち帰ることにより、家庭における実践にもつなげた。
 - ・ 食事マナーに関する系統的な指導の展開
 - ⇒ 発達の段階を考慮した指導の年間計画を作成し、給食の時間に栄養教諭による一斉指導を定期的実施した。正しい姿勢について、はしや食器の持ち方、使い方、片付け方等の指導を行い、給食時に繰り返し実践することで食事マナーが向上した。また、セレクト給食・ペア給食・バイキング給食・お誕生給食・野外給食・校長室給食などを通して、望ましい食事の取り方や栄養について理解したり、食事マナーが向上したりすることにつながった。
 - ・ 児童会（給食委員会）の充実
 - ⇒ 給食委員が毎日の給食についての放送や栄養黒板の記入、片付け・残食量調査等を行ったことで、給食への関心が高まり、「もったいない」という気持ちが育った。さらにそれが、児童全体に広がったことで、学校全体の残食量減少や食事マナー向上につながった。



○ 食に関する授業等の実践

⇒ 栄養教諭が参画する食に関する指導について、年度当初に各学級担任と年間指導予定を確認したことにより、計画に基づき確実に実践できたことで、児童の食に関する理解の深まりが見られた。

小学1年生 生活科「がっこうたんけん」

小学4年生 保健「育ちゆくからだわたし」

小学6年生 保健「病気の予防」

小学5年生 家庭科「はじめてみようクッキング」
「元気な毎日と食べ物」

小学6年生 家庭科「くふうしよう朝の生活」

「くふうしようたのしい食事」

小学1～6年生 学級活動

中学1年生 技術家庭科「健康と食生活」

中学3年生 保健体育「食生活と健康」



○ 体位や食生活等の分析

⇒ 各小中学校養護教諭との連携を図り、学期ごとに児童生徒の体位を計測し、学校給食摂取基準を定めた。食生活アンケート等の結果から実態を把握し、食に関する指導に生かした。

テーマ2

南摩地区で取り組む家庭・地域と連携した食育の充実

○ 食育だより等を活用した啓発

⇒ 区内内三小中学校合同作成の「食育だより」を定期的に発行したことで、学校における食育について保護者への啓発を実施できた。また、南摩地区の取組の中で明らかになった課題と、市内他地区における課題で共通するものを、食育だより「すくすく元気かぬまっこ」に取り上げて市内全域に情報発信し、啓発した。

○ 学校給食における地域産物の活用促進とそれを生かした食育の実施（地産地消の促進）

⇒ 区内内の生産者から直接購入した食材や、南摩中学校保健給食委員の生徒が地元農家に出向いて収穫した農作物（たけのこ、にら）について、掲示物等の資料を作成し、それらを活用して食に関する指導を展開した。

学校農園で栽培した農作物を給食に使用したり、家庭科の授業等で生徒自らが調理したりすることで、知識が深まるとともに地域農作物への興味関心が高まった。

○ 親子料理教室の開催

⇒ 南摩小学校2年生学年PTAでは、親子料理教室を開催し「朝食」についての講話を実施した。（参加者：38名）

南摩小学校5年生学年PTAでは、「学校給食の人気メニューを生かした朝食のおかず」の親子料理教室を開催し、児童の実態や朝食・食事マナーについての講話を実施した。（参加者26名）

上南摩小学校サマースクールでは、親子料理教室を実施し、「食育・朝食」について児童の実態を踏まえた講話を実施した。（参加者：24名）

南摩中学校家庭教育学級では、「学校給食人気メニューを生かした朝食献立」の親子料理教室を実施し、「朝食・骨密度・野菜」をテーマにした講話を実施した。

○ 食育講演会の開催

⇒ 平成24年7月16日(月)、東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏を講師に招き、「基本的生活習慣が子どもの脳発達を決める」と題した食育講演会を実施した。（参加者：263名）

○ 給食食材の納入業者や地域内生産者、高齢者との交流

⇒ 地域内生産者（JA関係者、いちご・にら・鹿沼菜・米生産者等）や高齢者の方々を学校給食に招待して交流を図った。生産者の方から、食物を栽培するにあたって心がけていることや、苦勞する点などについて具体的な話を聞いたことで、食べ物を大切にする心や感謝の気持ちがさらに高まった。



○ 保育園への食育の啓発や交流

⇒ なんま保育園児（年長児10名）を学校給食に招待し、給食と一緒に食べ、交流学习を実施した。就学前にこのような体験をすることで、園児に学校生活への安心感や、給食を楽しもうとする気持ちが育った。また、就学時健康診断時に保護者と個別健康相談を実施し、早期に情報を共有したことで、入学後すぐに給食の対応ができる体制を整えた。新入生保護者説明会では、家庭における食事マナーについて栄養教諭が講話し、家庭での実践を促した。

○ 食育フェアにおける啓発活動の実施

⇒ 平成24年12月2日（日）に開催した食育フェアにおいて、「鹿沼市学校給食展」を実施し、鹿沼市内の学校における食に関する指導の取組や、給食への特産物活用の状況について展示した。また、試食などの体験を通して広く市民への啓発を行った。（来場者約1,000名）

○ 健康づくりのつどいにおける啓発活動の実施

⇒ 平成25年2月3日（日）「健康づくりのつどい」の食育コーナーにおいて、クイズや試食を行い、朝食の大切さについて啓発した。この様子は、地元メディアで紹介され、地域全域への啓発を行うことができた。（来場者約250名）

テーマ1～2に共通する具体的計画

○ 小児生活習慣病予防検診の結果から考える、学校給食と食に関する指導の実践

⇒ 栄養教諭と各小中学校養護教諭等が連携し、生活習慣病事後指導教室（集団指導）を地区3校で実施したことで、自分の健康と食生活の大切さを考えられるようになった。また、検診の結果で指導を要する児童生徒には、保護者を交えた個別指導を計画的に実施した。



○ 給食試食会と朝食に関する講話の実施

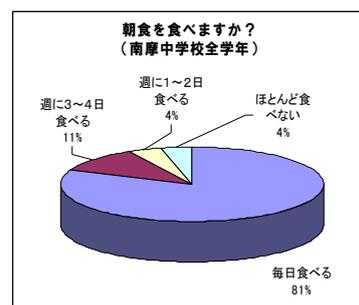
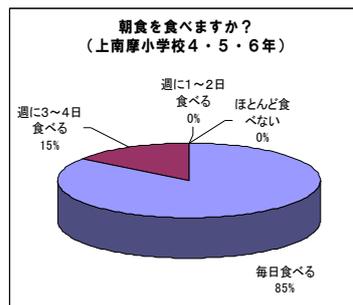
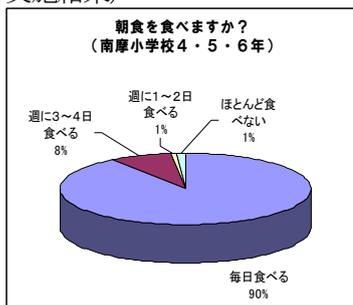
⇒ 南摩小学校の1年生と6年生の保護者を対象にした給食試食会や上南摩小学校の親子三代（祖父母・親・児童）会食で、「学校給食・朝食・食事マナー」についての講話を実施し、家庭地域に広く啓発した。

本事業における評価指標と考察

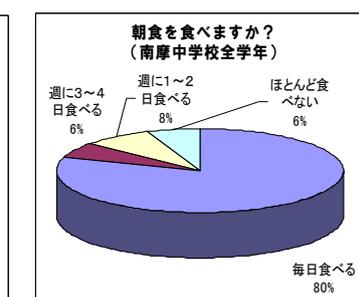
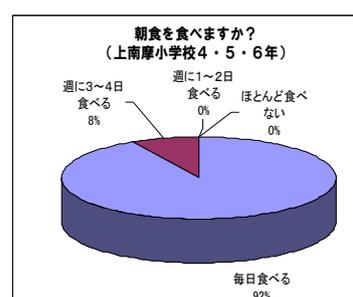
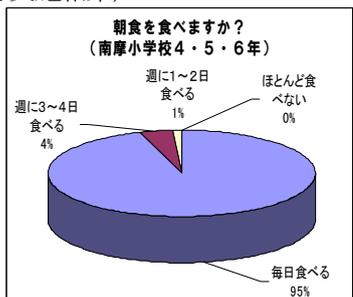
① 朝食摂取状況について

6月に小学4～6年生と中学生全学年を対象に食生活アンケート調査を実施し、目標値を設定した。12月に2回目の食生活アンケート調査を実施し、効果の検証を行った。

・朝食を毎日食べる割合
（6月実施結果）



(12月実施結果)

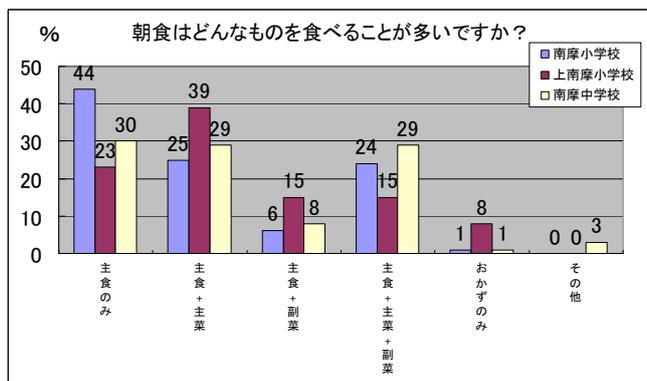


【評価指数】

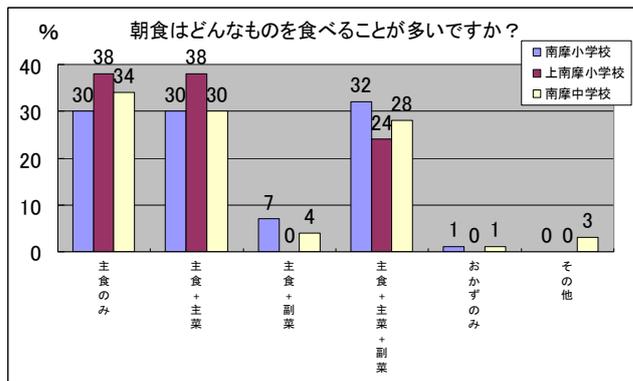
学校名	6月	目標	12月
南摩小学校	90%	95%	95%
上南摩小学校	85%	95%	92%
南摩中学校	81%	90%	80%

・朝食の食事内容別割合

(6月実施結果)



(12月実施結果)



【評価指数】

学校名	6月	目標	12月
南摩小学校	24%	35%	32%
上南摩小学校	15%	30%	24%
南摩中学校	29%	40%	28%

【考察】

朝食を毎日食べる割合は、南摩小学校では、目標値(95%)を達成した。上南摩小学校では、毎日食べる割合が増加した。南摩中学校では、改善が見られなかったことから、今後も継続的に指導していく必要がある。

朝食の食事内容については、「主食・主菜・副菜」がそろった望ましい食事をしている児童生徒の割合が、小学校2校で目標値には達成しなかったが、増加傾向となり改善が見られた。南摩中学校では、改善が見られなかったことから、今後も継続的に指導していく必要がある。

② 地場産物活用割合

県農産物を一食あたり3品以上使用した給食実施状況

4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
71.4%	81.0%	90.5%	85.7%	75.0%	77.3%	81.0%	87.5%	64.7%	73.7%	64.3%

【評価指数】

給食で地場産物の活用を図り、生産者との交流事業を開催することで、自分の住む地域で採れる「食べ物」への興味・関心を高める。

【考察】

会食会での生産者との交流、学校農園を活用した活動、地元でできる作物の収穫などの様々な体験や、給食等で地場産物を味わうことにより、地場産物への知識の習得や興味関心が高まった。

③ 給食残食率

月別	ごはん	パン	牛乳	おかず	くだもの	デザート
4月	2.9%	1.3%	0.2%	1.8%	0%	0.5%
11月	1.1%	0.9%	0.6%	0.5%	0%	0.5%

【考察】

給食残食率は、以前から鹿沼市内平均より低い状況だったが、今年度4月に比べ、11月の残食はさらに減少した。

本事業の成果

- ・ 小中9年間の系統性を考えた食に関する指導に係る全体計画及び年間指導計画を整備し、発達の段階に応じた各学年の食に関する指導の目標を作成した。目標に沿って継続した指導を実施したことで、指導の充実が図られ、食生活の改善につながった。
- ・ 教科等における食に関する指導に栄養教諭が計画的に参画し、学校給食を生きた教材として指導することで、小中学校の発達の段階に応じた継続的かつ体系的な指導を実践することができた。その結果、児童生徒の食に関する正しい理解や知識の習得が図られ、給食残食率の低下につながった。
- ・ 食育講演会を大々的に実施したことで、家庭や地域において朝食への関心が高まり、朝食摂取状況の改善を図ることができた。
- ・ 家庭や地域と連携し、栄養教諭が中心となって試食会や食育講話、親子料理教室を実施したことで、食に関する指導の場が広がり、家庭や地域においても食に対する関心が高まり、児童の朝食摂取率の増加や食事内容の改善を図ることができた。
- ・ 地区内の保育園と交流を図ることにより、就学前に子どもたちの食事状況や健康状態を把握することができた。また、新入生保護者説明会の際、栄養教諭が家庭における食育について講話し、就学前に家庭における食育の実践について啓発した。それらの結果、新入児童一人一人の課題を事前に把握することができ、学校給食における対応や個別指導への手がかりが得られた。
- ・ 学校農園活動を通して、児童生徒が自分たちの手で食物を栽培し、生産から消費までの過程を理解することで、食に関する感謝の気持ちが育まれた。また、収穫物を使用した調理の際には、食物の栄養やよりよい調理法について栄養教諭による専門的な指導を受けることで、食物に対する知識や理解が深まった。
- ・ 地元生産者との情報交換など交流の機会を増やして連携を深めた結果、給食で使用できる地元産食材が増えた。このため、それらを生かした指導を実施することにより、児童生徒の地場産物に対する理解が深まったり、食べ物を大切にする心や感謝の気持ちの醸成を図ったりすることができた。
- ・ 南摩地区における取組を市内の食育担当者が参集する会議等で実践発表したり、地元番組で紹介されたりして、広く啓発活動を実施することにより、鹿沼市における食育の推進につなげることができた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- ・ 中学校においては朝食摂取状況の改善が図れなかったことから、発達の段階に応じた食に関する知識や能力の定着が図れるよう、今後も、教科横断的な指導と関連付けながら小中9年間の系統性を考えた食に関する指導の充実を図り、年間指導計画に沿った指導を継続して進めていく必要がある。また、家庭・地域との連携も大切なため、今後も地元生産者やPTA等と協力し、南摩地区における食育の推進を図っていく。
- ・ 学校・家庭・地域が一体となって、より効果的な食育の推進を図るために、家庭や地域への情報発信や啓発活動が必要である。今後も、継続して食育だより等による啓発を地域全体に発信していくことにより、市全体の食育の推進を図りたい。